

四季成り性いちごによる春植え夏秋どり栽培

山形県農業研究研修センター中山間地農業研究部

研究のねらい

国内のいちご生産は夏秋期が端境期となっている。近年、高温長日条件下においても花芽分化が容易な四季成り性品種が開発され、中山間地域の夏期冷涼な気象条件を活かした夏秋どり栽培に期待が高まっている。そこで、無加温ハウスを利用した春植え夏秋どり栽培技術を開発した。

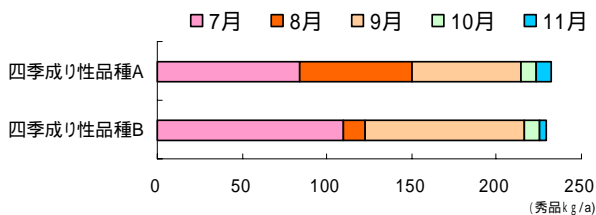
研究の成果

3月下旬～4月上旬に冷蔵苗を購入し、1ヶ月育苗後、4月下旬～5月上旬に無加温ハウスに定植することで、夏秋期にイチゴ生産が可能である。

本作型の収量は、7畝当たり秀品で200kg以上見込まれる（第1図）。この場合の7畝当たり所得は、契約栽培で200千円以上が見込まれる（第2図）。

作型 春植え夏秋どり(中山間地)

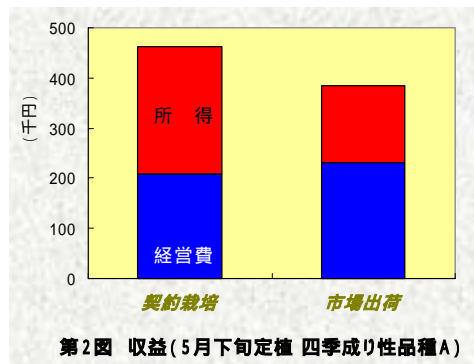
月	3			4			5			6			7			8			9			10			11		
	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下
4月下旬定植				×			—			—			—			—			—			—			—		
				仮植			定植			—			—			—			—			—			—		
5月上旬定植				×			—			—			—			—			—			—			—		
				仮植			定植			—			—			—			—			—			—		



第1図 時期別の秀品収量 (2004年 5月上旬定植)



夏期の品質に優れる四季成り性品種A



第2図 収益(5月下旬定植 四季成り性品種A)